



〒241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1 電話 045-366-1111



田口芳雄 病院長

この度、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院長に就任いたしました田口芳雄と申します。まずは病院長として所信表明を行うべきですが、すべからく自然体で臨むことを信条としていますので、私が日頃考えていることの頭文字をとって語呂合わせ的にPATIENTS（患者）という単語にまとめてみました。以下にご紹介申し上げます。今日、病院運営にあたり「患者中心の医療 Patients oriented medicine」に異論を唱える人はまずいないと言ってよいでしょう。説明性Accountabilityや透明性Transparencyは事象をガラス張りにして、包み隠さず、事の顛末を明快に説明し得ることを示しています。Informed consentは「説明と同意」と訳されていますが、私は説明と同意の間にある過程を重要視しています。それは、説明を理解し、納得して同意することと考えます。Economizationは儉約という意味です。医療は無駄の多い産業です。しかし、それを甘んじて受け入れてはいけません。無駄が無駄を呼び、病院収益を悪化させ経営を苦しめます。このことは提供すべき医療水準の劣悪化へと連鎖していきます。健全な病院経営は医療をも健全ならしめるのです。私は脳神経外科医ですが、手術場に入る時に必ず思い起こす言葉があります。それは "First, do No harm" です。直訳すれば「第一に、決して害してはならない」となります。ただでさえ弱者である病人にメスを加えるのですから、それ以上に悪くすることがあってはならないのです。同様なことはあらゆる部署の医療行為にも当てはまると思います。決して患者さまに危害が及ぶことがあってはなりません。Timelinessとは時宜を得たことを示します。すべてに適用されるものと思いますが、事を成すのに時期を逸してはいけません。今できること、今為すべきことを先延ばしにして信頼は得られません。安全管理Safety managementは特に重要で、上記のすべての事柄を包含しています。患者さまの安全管理ばかりでなく、ご家族、事務系を含めた医療従事者、病院組織、端的に言えば病院全体を対象としています。このような考え方のもと、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院というオーケストラのコンダクターとして、皆様に美しいハーモニーをお届けしたいと思っておりますので、ご支援、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。





● ● ● 周産期センター ● ● ●

当センターは母性部門、新生児部門に分かれ、妊娠後期から新生児期までのお産にかかる周産期医療を支えています。開院当時から、神奈川周産期救急医療システムの基幹病院としての役割も担っています。年間の分娩数は500件前後で、ハイリスクの妊婦さんのお産が約半数です。帝王切開の割合は30%前後となっています。産婦人科外来では、ご希望の妊婦さんを対象に、3D超音波を用いて、胎内の赤ちゃんの顔や表情をよりはっきりと見ることが出来る、胎児ふれあい外来を行っています。そして正常分娩の場合はお父様の立会いが可能です。お産のあとは、お母様と赤ちゃんは同室でお過ごしいただいています。母乳育児がより良くできるように支援し、親子の自然な営みが滞らないように配慮しています。



新生児部門のベッド数は30床で、そのうち9床が認可のNICU（新生児集中治療室）です。年間約180名のハイリスクの赤ちゃんの入院があり、出生体重1000g未満の赤ちゃんは30名前後です。集中治療のみならず、小さい赤ちゃんとご家族の育児の場としての機能も考え、カンガルーケア（写真のようにお母さんが早く生まれたわが子を直接肌と肌を合わせて抱っこする方法です。早産児の体重増加や呼吸状態の改善の効果のほか、親子の絆を深めることができます。）や母乳育児にも力をいれています。NICUを退院されたあとの育児支援としてコアラキッズ（退院児の同窓会）も年に2回開催しています。



今年度より、川崎市にある大学病院小児科より周産期センター長として瀧正志先生が着任しました。気持ちも新たにスタッフ一同、これからも当センターを退院された赤ちゃんとご家族が、いつまでも元気で幸せでいていただけるような周産期医療を提供できるように、がんばって参ります。

聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 周産期センター
センター長 瀧 正志 副センター長 飯田 智博 副センター長 笹本 優佳（文責）

看護週間を終えて

看護師長 戸田 哲子

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの生誕にちなみ、5月12日は「看護の日」に制定されて15年になります。その根底には「看護の心をみんなの心に」と、ご家族の看病やご家族を見取られた方・自ら闘病生活をされた方が、看護との深い関わり・看護の心を大切に思われ、また看護職にも格別の理解と応援の気持ちを抱いていらっしゃる方々の声から発せられて制定された経緯があります。そして12日を含む1週間を「看護週間」として全国各地で看護に触れる行事が開催されています。

当院でも皆様の健康な生活への手助けができればと、毎年「看護週間」のイベントを開催していました。今年は5月11日・12日の9時から12時30分の短い時間でしたが医師・薬剤師・栄養士の協力を得て実施しました。

実施した内容は、

1. 健康相談・栄養相談・医療福祉相談・在宅看護相談・お薬相談・禁煙相談
血圧測定・酸素飽和度測定・体脂肪測定
2. パネル・写真による掲示（当院看護活動の紹介）・アロマテラピー（展示と説明）
食事の展示（バランスのとれた献立と量の比較）
3. 介護用品の展示と紹介

多数の方に参加していただき（319名）好評だったと思っています。

患者さま・ご家族・地域の皆様に少しでも健康についての支えになっていたければ幸いです。記念として、みんなで楽しんで作ったしおりと写真愛好家から美しい花の写真の提供があり、皆様にプレゼントさせていただきました。

平成18年8月25日発行

発行：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院広報委員会・総合相談部 〒241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1 TEL: 045-366-1111
企画・制作：株式会社 教育広報社 〒102-0075 東京都千代田区三番町30番地2 財団法人 大蔵財務協会ビル TEL: 03-3263-9926